

平成30年度 東北歴史博物館協議会議事録

日 時 平成31年2月12日(火)

13:30～15:30

場 所 東北歴史博物館 大会議室

出席者・委員(50音順)

(副会長)	大郷町立大郷小学校長	河合 裕也
	多賀城市芸術文化協会会長	菊池 すみ子
	東北生活文化大学高校入試広報室	須藤 由子
	多賀城市立城南小学校PTA会長	立川 靖子
(会長)	宮城学院女子大学長	平川 新
	宮城学院女子大学教授	宮原 育子

次 第

- 1 開会
- 2 開会の挨拶 宮城県教育庁技術参事兼文化財課長 須田 良平
- 3 委員及び事務局職員紹介
- 4 議事
(1) 平成30年度事業報告
(2) 平成31年度事業計画
(3) 東北歴史博物館中長期目標平成30年度自己評価(12月末現在)について
- 5 閉会の挨拶 東北歴史博物館長 鷹野 光行
- 6 閉会

(配付資料)

- 1 委員名簿
- 2 席次表
- 3 歴史博物館協議会条例(写)
- 4 資料1 「平成30年度事業報告」
- 5 資料2 「平成31年度事業計画」
- 6 資料3 「東北歴史博物館中長期目標平成30年度自己評価(12月末現在)」

1～4まで記載省略

5 議事

議 長：傍聴人はいらっしゃいますか。

管 理 班長：います。

議 長：では入ってください。それでは議事に入ります。資料1の「平成30年度事業報告」から、

事務局からお願いします。

(説明の概略)

【平成 30 年度事業報告】

1 企画展示事業

(1) 常設展示

- ・総合展示は通年、総合展示室で旧石器時代から近現代までの東北の歴史を展示。
- ・テーマ展示は、テーマ展示室 1 で①「形象埴輪の世界」、②「色麻古墳群」③「郷土玩具の世界」、テーマ展示室 2 で「染めの型紙」、「福応寺毘沙門堂奉納養蚕信仰絵馬」、⑥「東北の土偶」。テーマ展示室 3 で⑦の「仙台の近世絵画」から⑬「仙台藩の工芸」を実施。
- ・映像展示は東北地方の祭りや民俗芸能を上映。東大寺展開催期間中は、特別展会場として利用し、その間は、ロビーにてフリーモニターで上映。
- ・屋外展示の今野家住宅は、盆棚飾りや正月飾りなど四季に合わせて飾り付けを変えながら展示。

(2) 特別展示

【東大寺と東北】展

平成 30 年 4 月 28 日から 6 月 24 日まで 51 日間、東日本大震災復興祈念特別展として開催。当展は、二度に及ぶ兵火による焼亡など苦難に遭いながらも多くの人々のチカラが集まって復興を成し遂げてきた東大寺の歴史これを東北とのつながりを交えて紹介しながら東大寺の復興の歴史が東北復興の今と未来を照らす道明かりとなることを願って行った。171 点公開。うち国宝 17 点、重要文化財 25 点。主催は「復興祈念－東大寺展実行委員会」で、当館と、河北新報社・仙台放送・日本経済新聞社・多賀城市で構成。講演会・展示解説・ギャラリートークの他、ワークショップを企画。「写経体験」を 3 回。子どもたちを対象に東大寺と縁のある砂金採りの実施。多賀城市のオペラティックナイト・あやめ祭りのライトアップと連携し閉館時間を通常の 17 時から 19 時 30 分あるいは 21 時まで延長。奈良と東北の子どもたちの交流コンサートを実施。観覧者数は 68,503 人（当館歴代 2 位）。

【タイムスリップ縄文時代】展

平成 30 年 7 月 21 日から 9 月 23 日まで 57 日間開催。近年の発掘成果を用いて、縄文時代を紹介したもの。自給自足を基本とし、自然とともに生きた縄文時代の人たちを紹介することで、現代生活を見つめ直すきっかけとなることを狙いとした。展示は博士と子どもたちがタイムスリップするというストーリー性を持たせ、イラスト・体験コーナー、復元模型などを多く用いて、来場者が展示室で体験して考え発見する展示を目指した。体験コーナーと体験ツールの製作・体験学習あるいは、県外の博物館の担当者を招いて意見交換を含めた研究会の実施。屋外展示「縄文植物園」も実施。観覧者数は 8,067 人。

【伊達綱村】展

平成 30 年 10 月 6 日から 12 月 2 日までの 50 日間の開催。仙台藩四代藩主、伊達綱村は、いわゆる伊達騒動を乗り越えて仙台藩を発展させ、現在も信仰・文化の拠点となっている多くの寺社を建立・造営したほか、学問を奨励し藩史編纂事業を行うなど文教の興隆に努めた。その綱村公 300 年遠諱記念特別展。展示解説のほか、記念講演会等や伊達家御当主の泰宗様の御登席、聖ウルスラ学院英知高等学校書道部が池の水上ステージで書道パフォーマンスの演技。観覧者数は 4,888 人。

【パネル】展

エントランスホールで第二管区海上保安本部と協力して 2 回実施。「明治維新と海図」は平成 30 年 9 月 19 日から 30 日までの 11 日間。9 月 12 日の水路記念日を記念し、海上保安庁が刊行している海図を広く理解してもらおうもの。「灯台の歴史に見る日本の近代化」は平成 30 年 10 月 23 日から 30 日まで

の7日間。明治元年以来、灯台150周年という節目に当たり、灯台への関心と理解を深めてもらうもの。

2 教育普及事業

(1) 施設運営

- ・こども歴史館 利用人数を12月末で対比すると昨年比に比べ1,287人の減少。
- ・図書情報室 12月末で対比すると昨年比に比べ95人増加。
- ・今野家住宅 12月末で対比すると5,400人余り増加。

(2) 催事事業

- ・館長講座10回、博物館講座20回、体験教室11回を実施。

(3) その他の教育普及事業

- ・出張事業、公民館と小学校において実施。
- ・館内及び館外でもボランティア研修を実施。
- ・学校教育との連携では、一つは職場体験として中学校4校の生徒を受け入れた。校外学習で来館した小学校・中学校の児童生徒に講義。多賀城民話の会の協力を得て、民話の授業を小学校1校4クラスに実施。
- ・博物館実習では15大学、19名を受け入れた。また連携大学院として、東北大学の大学院生に対し、文化財学の教育、研究の指導を実施。

3 調査研究事業

分野横断的なテーマとして、「歴史的災害展示研究」プロジェクトを設定し共同研究を進めている。過去の歴史的災害を振り返りながら震災の記憶を後世に伝えることを目的に、どのような形で展示として成功させるかを検討。科学研究費助成金を活用している。その他に、以下のように科学研究費や文化庁、あるいは一般財団法人住環境財団から助成金を獲得し、調査研究の推進を図っている。これらの調査研究の成果は、研究紀要や定期的な開催する講座などで公開。

4 資料管理事業

(1) 資料の収集・利用

実物資料の購入はなし。資料の寄贈は、故氏家和典氏収集資料を含め5件。資料の貸し出しは、実物が39件902点、写真が75件284点。

(2) 保存環境・保存処理等

収蔵庫・展示室の環境確保や遺跡等の出土資料の保存処理を実施。自治体からの調査依頼に対し、調査協力や指導助言を行った。山元町より依頼の合戦原遺跡の線刻壁画の安定的な保存処理が完了し、リニューアルした町の歴史民俗資料館において展示公開。

5 東日本大震災対応

(1) 被災文化財の保全活動

石巻市や亙理町などから依頼を受けて保管している被災資料は、継続して適切に保全修理活動を実施。被災文化財の修理保存に関する技術的な研究も進めている。

(2) 県内復興関連発掘調査への協力

引き続き県の文化財課が行う復興関連の発掘調査に考古学分野の職員を一名、1年間を通じて派遣。

6 その他

(1) 予算

457,809,000円。

(2) 施設設備の改修

総合展示室など観覧エリアの照明をLED化。1月の休館を利用し工事を実施。

(3) 入館者統計

12月末対比で28,333人上回っている。開館以来の入館者数の累計が300万人を超えた。

(4) 友の会

会員数は29年度と比較し若干増加。

議 長：ただいまの報告に対して何かございますか。

議 長：東大寺展はTFU(東北福祉大学)ギャラリー・ミニモリとあわせて20万人という話ですが、ミニモリでは東大寺関連の展示をしたということでしょうか。

小野副館長：小泉淳作画伯が東大寺に奉納した本坊襖絵40面のうち、「蓮」や「桜」を描いた32面を展示したものです。

議 長：襖絵展に13万人来たのですか。

小野副館長：他の関連イベントを全部合わせて20万人です。襖絵展だけではございません。

議 長：多賀城市のいろいろな催しも含め、東大寺展関連を全部含めて20万人ということですね。その周辺企画をご覧になった方が本館の方にどのくらい回遊して下さったかというの
は。

小野副館長：すぐには数字を把握できません。

議 長：他にいかがでしょうか。

議 長：大型展を誘致するとお客さんが増えるのはいつものことですが、東大寺展は特に人気があったということですがけれども、良い展示を誘致できると博物館にも良いという話になるのか、財政的にはですね、収入が増えて良くなるのかどうなのか、それはどうですか。

小野副館長：東大寺展ですと、実行委員会を組んだ方々と入館料収入等を分配します。それが多く返ってくれば、県の財政上もよろしいということです。

議 長：収入は県に入るのでしょうか。

小野副館長：県にも入りますし、団体にも入ります。

議 長：博物館には回って来ないのですか。

館 長：ここは県の施設ですので県に入ります。大型展覧会をやっても、黒字になるということはまずございません。いかに赤字を少なくするかといいところがかなり大変でございますけれども、利潤を出すためのものではございませんので、足が出るというつもりで見ていただかないと困るなと思います。

議 長：なぜこういうことをお聞きしたかという、大型展でたくさんのお客様が来てくださって、収入も増えるということになると、博物館の企画とか展示というものが、どうしても大型展を誘致する方向に傾いていく、お客様を呼べる企画に傾いていくのではないのでしょうか。その良い面とマイナス面、博物館独自の企画が弱くなる、その兼ね合いがどうなるのかということが根底にあるものですから。今赤字になりがちだということで、必ずしもそちらに傾斜する話ではないということですね。

館 長：もちろん大型の展覧会を開いて、当館を知っていただく意味では非常に大きい。その後の自主的な企画展に必ずしも結びついていないということではありますが、普段東京で止まってしまうものがここで見られるのは良いことだと思います。

議 長：そうですね。やはりお客さんが来るということは関心が強いということですね。

議 長：他にいらっしゃいますか。

菊池委員：私は多賀城市民なんですが、こういう大型イベントや展示にしても、やはりもう少し宣伝を考えられた方がいいのかなど。終わってから、満足したのか、あるいはもう少し入った

のではないかという話し合いがあったのかどうかということも伺いたいと思います。あれだけ良いものを見せていただいて、見た人は皆幸せを感じて、なかなか向こうに行っても見られない物を見せていただいたということで、ミニモリの東大寺襖絵展もそうでしたけれども、一人でも多くの方たちが集まるような話し合いを密にさせていただいたら良いかなと思いました。

館長：実行委員会の中で、事後の検討会がありました。ただ、この数字というのは、個人的な判断ですが確かに、当初、目標 10 万人くらいと設定していたのですが、仮にこの規模を首都圏で開くとすれば大体 100 万人くらいの規模になるわけですね。そのことを考えますと、6 万 8 千人というのは相当な方が来てくださったのではないかと。目標に届かなかったことは残念ですが、今までの企画展・特別展と比べても、3 番目の記録が 3 万 9 千人、開館直後と比べてもかなりおいでいただいたと思っております。その面では、不満ながらも満足かなと。

菊池委員：多賀城市ではよく 10 万人くらいということをおっしゃっていたようですが。

議長：たくさん入っていただくのは一番良いのですが、菊池委員が気にされたのは、10 万人というような目標ですね、その目算の根拠ですよね。6 万 8 千は大変な数字だと思うのですが、そのギャップがなぜ生まれたのか、そのあたりのところがお聞きになりたい、その理由をどのように分析されているかという趣旨かなと。

立川委員：交通手段ですけれども、臨時駐車場が割と空いていたという印象があるのですが、電車で来る方は今回多かったのでしょうか。

館長：今回の特色の 1 つとして、電車を利用された方が非常に多かったと言えます。

笠原副館長：今回は 3 割、通常は 2 割です。

館長：東京でもずいぶん宣伝活動をしていまして、渋谷駅等に大きなポスターを掲示しました。東京からも新幹線と電車を使って来ていただく、そういう意味での広報活動はいたしました。

立川委員：バス等使わなくても駅から来られるのはすごく良いですね。

副会長：東大寺の方は全国でもやるが伊達綱村に関しては、宮城県だけしかやらないと思いますので、大きな展示に来た方が、今度はこれを見ようというつながっていけば良いと思います。それをうまくつないで宮城県の多賀城に関わるような歴史にも興味を持っていただき、興味対象を増やしていただければと思います。

館長：例えばアンケート調査、アンケートを書いていただいて、抽選で次の招待券を差し上げますということで、次の展覧会にもつながるということを考えております。おっしゃるように単発で終わらせてはいけないと思います。

立川委員：実際に効果はあったのですか。

館長：その方が実際に来たかと言うことは把握できていません。

議長：巡回のような大型展と、博物館独自の地元ならではの企画という組み合わせの中で、博物館の展示企画を立てられて、地元ものとなると、どうしても桁が違うのはやむを得ないと思います。政宗は全国区だけれども、綱村は地方区、そういう差は出てくるかと思いますが、地元に着した展示はやはりありがたいし、仙台の歴史は政宗だけではないということ、県民の方にも他の方にも知っていただけるようになるのは良いかなと思っております。

宮原委員：アンケートをとっているということですが、可能であれば、それぞれの展示について、お客様がどのようなご意見を持たれているのか、代表的な御意見とか、御希望とか、今後こ

の報告のところにも少し載せていただくと、とても重要な手がかりとなります。そこが可能であれば教えてください。

館長：今回は難しいので、来年以降で。

宮原委員：次回からで結構です。

館長：印象で申し訳ないですが、アンケートを読みますと、おいでになった方の満足度という点では、満足が多い、例えば東大寺展ですと、「満足だ」34%、「概ね満足」が45%、それから「普通だ」11%、ということで、9割近くの方が満足、ではないにしろ不満ではないという結果です。近年、巡回展は「アンコールワット」、「ラスコー展」、「漢字三千年」とありましたけれども、その時では「満足」と「概ね満足」を合わせまして、89.6%というような数字が出ております。おいでくださった方は皆さん満足して帰っていただいているということが言えるかなと思います。ただし、アンケートに答える方々というのは、それなりに関心を持って書いてくださっているのです、そういう方たちのご意見だということも踏まえる必要があります。

宮原委員：属性等の分析はされてらっしゃるのですか。男女別、居住地別、年齢別。

笠原副館長：アンケートの中には記載するところがあります。

宮原委員：いろいろな反応の手がかりというのを是非次回から教えていただけるとありがたいです。

須藤委員：2点あります。1点は東大寺関連行事に JR・旅行会社とのタイアップがあり、この時ちょうど「大人の休日倶楽部」で、JRの駅を使っていたものですから、東京にもあった気がします。すごく宣伝していて、宣伝効果はすごいなと思いました。今後も東北歴史博物館はここにあつてこういうことをやっているのだということ、皆に PR するということは、すごく重要だと思います。2点目は質問ですが、タイムスリップのところ、文化クラスター形成事業とありますが、どういったものなのか、城南小学校と共同作業とはどんなものだったのか、面白そうだなと思って、伺いたいと思いました。

館長：文化庁の補助事業の名称でございます。子どもが核になって地域のいろいろな文化財とかの企画、一緒に事業するものです。

須藤委員：具体的にはどういったことをしましたか。

企画班長：城南小学校の皆様、縄文展の展示を教材として学習していただくということで、事前学習会を開催したり、実際に展示を観ながら学習をしたりというようなことを一緒にやらせていただいています。

須藤委員：補助金が出るのですか。

企画班長：補助金を使った事業です。その補助金で、縄文展リーフレットを作り、展示をご覧いただいた小学生、学生に配りました。そういった形で利用させていただき、地域と一緒に展示を盛り上げていこうとして使わせていただいています。

須藤委員：周知という点で、子どもたちが重要だと思うので、是非毎年エントリーして資金を獲得していただきたいと思います。

菊池委員：子どもたちへの教育普及事業というのがあるんですね。今回初めて取り組まれたものがあると思うのですが、その時に、子どもたちの反応、手がかりを見つける、要望等、アンケートはいただいていますでしょうか。子どもたちがどういうもので感動したか、ここに博物館があると分かっていたか等、本当に初歩的なものでも良いので、宣伝にも使っただけならと思います。今までは、どうなのでしょう、授業をしてるだけなのか、子どもたちからアンケートというのはあるのでしょうか。

企画班長：子どもたちを対象とした体験教室ですとか、子どもを対象とした民話教室というものがご

ざいまして、各事業が終わったところでアンケートをしております。今回の縄文展は、縄文展リーフレットをお配りするとき、例えばどこからいらっしやっているのかをチェックしておりますし、参加者には意見も書いていただき、今後の広報展開やどういう方々が興味を持っているかというところも一応分析をしております。

館長：職場体験の小学生たちが、お礼のお手紙をくださるということがございまして、その中に、何回も来たけれど今回また学芸員の話聞いて、また来たいと言ってございまして、本当にまた来てくれたらいいと考えております。

菊池委員：職場体験も含めまして、何個か持続できるようによろしくお願いします。

議長：こども歴史館の数字で気になった点がございまして、平成16年度以降の来校数が297校から、平成20年に300校、ここがピークで、平成23年に震災の影響で落ち込んで、164校になり、その後回復し、2016年度に190代で、現在200前後を行き来している。震災の影響は非常に分かるのですが、当初からすると、現在3割減になっている。これはどういう要因と分析されているのか。小学校がそもそも減ってきているのも反映しているのかもしれないけれども、この数字だけをみると働きかけの力が弱くなってきている印象を受けてしまうのですが、その辺はどうでしょうか。

館長：学校が減っているというのはかなり大きいと思いますし、広報は目一杯とっていいくらい行ってはいます。

企画班長：こども歴史館は、毎回来ているとどうしても体験が同じような形になる面もございまして。インタラクティブシアターのリニューアルで、防災関係を強化していこうと取り組んでおりますが、なかなか利用が伸びていない現状にあります。そういったところも踏まえて、広報に力を入れて、こども歴史館の利用促進をしていきたい。今年度チラシを制作し、次年度に向けそれを配布して、このような活用方法がインタラクティブシアターにあるのだということを学校に広報したいと考えております。

副会長：学校現場におりますもので、これからもいろいろ来る機会を提供していただければと思います。初任研などでも、こういうようにしているということを説明している場面に出会ったこともございまして、学校自体も東北歴史博物館イコール縄文時代・多賀城ですとか、ある一定の時代背景で見ている先生方も多いのではないかと。それをそうではなくて、県内の歴史に関するものもたくさんあるとか。あとは学校側にも事情があり、以前と違って校外学習を見直している部分もありますし、移動手段、金銭的な面でもなかなか昔とは同じではありませんので、博物館の理由以上に別な理由があるのではとも感じます。もう一つ、学校に対してプレゼンテーションしていただくと同時に、休み中に今回のようなものがある場合、保護者に利便性とか面白さを伝えることでまた違うのかなど。足を握っているのは保護者ですので、そういった観点も入れながら企画していただけるといいと思います。それから小学生も保護者も人というファクターにすごく敏感になっているので、そういった魅力も発信していただければと思っております。

笠原副館長：194校に減っているのは平成28年からと思うのですが、これは外部的には「うみの杜水族館」がオープンした影響もあります。水族館に行っても結構ですけどこちらにも、というように勧誘をしております。それから、内部的には先ほどありましたけれども、こども歴史館のソフトを増やす、防災関係のソフトを増やす等をして、努力をしてくということ、まだ数字としてはそれほど盛り返してはいないのですけれども前向きに動いているところでございます。

議長：博物館だけでなく他の事情もあるだろうということでしたけれども、校外学習のできるよ

うな、バスをチャーターして博物館に見学にいけるような予算を教育委員会にしっかり学校につけていただけたらいいですね、そういうようなことがないとなかなか、目に見えるようには改善しないかもしれないと思います。

議 長：大分事業計画については時間を費やしましたので、よろしいでしょうか。
では平成 31 年度事業計画をお願いします。

(説明の概略)

【平成 31 年度事業計画】

1 企画展示事業

(1) 常設展示

- ・総合展示室は、これまでどおりの継続展示。
- ・テーマ展示は、テーマ展示室 1 で 4 本、テーマ展示室 2 では 3 本、テーマ展示室 3 では 7 本、内容を変えて展示。
- ・映像展示室は、従来どおり、無形文化財の行事や民俗芸能などを上映。
- ・今野家住宅は、母屋の屋根の葺替工事が予定され、7 月から 3 月まで観覧休止の予定。来年度、今野家住宅母屋の建築 250 周年を迎えるたり、テーマ展示室 1 でそれを記念した展示を行う。

(2) 特別展示

【最先端技術でよみがえるシルクロード】展

副題「東京藝術大学スーパークローン文化財展 最先端技術でよみがえるシルクロードー法隆寺・敦煌莫高窟・バーミヤン」。4 月 19 日から 6 月 23 日までの 58 日間の開催予定。スーパークローン文化財というのは、東京藝術大学が開発した芸術と科学の融合により、高精度な文化財の再現・複製技術。この最先端技術により、法隆寺の金堂壁画や釈迦三尊像からなる金堂空間の再現や、敦煌の莫高窟の再現、あるいは破壊されたバーミヤンの東大仏天井壁画の復元などを行い展示。展示資料は 70 点。展示解説や記念講演、ギャラリートークの他、ワークショップとして体験のイベントを計画。巡回展。目標観覧者数は 35,000 人。

【モダンデザインが結ぶ暮らしの夢】展

7 月 13 日から 9 月 1 日までの 44 日間の開催予定。モダンデザインというのはどのように育ったのか、そして戦争を経て、どのように受け継がれたのか、その様子を展示する予定。展示資料は約 180 点。目標観覧者数は 8,000 人。

【東北歴史博物館開館 20 周年記念特別展】

副題「蝦夷ー古代エミシと律令国家ー」。9 月 21 日から 11 月 24 日までの 56 日間の開催。近年の発掘調査の成果及び文献史料の最新の研究を基に、古代律令国家の形成、発展、衰退の中で、改めて蝦夷の存在を捉えると共に、その文化と実態に迫る。展示史料は約 300 点。関連行事として、記念講演会、リレー講座、展示解説を予定。目標観覧者数は 11,500 人。

2 教育普及事業

(1) 施設運営

図書情報室は本年と同様に運営。今野家住宅は屋根の葺き替え工事のため、7 月から観覧休止の予定。こども歴史館は、インタラクティブシアターの歴史的災害の教育で防災教育活動を活発化し、利用者増を図る。

(2) 催事運営

平成 30 年度同様に工夫を凝らした運営。

(3) その他の教育普及事業

平成30年度同様に運営。今野家住宅建築250周年を記念し、移築に係る講演会や、工事中の現場見学会も計画。

3 調査研究事業

考古、民俗、歴史、美術工芸、建造物、保存科学、各分野それぞれ一部で科研費、文化庁の補助金を活用しながら調査研究事業を実施予定。

4 資料管理事業

平成30年度同様、資料の保存・活用・修復、並びに収蔵環境の調査と維持管理を実施予定。

5 東日本大震災対応

(1) 被災文化財の保全活動

関係機関等と連携・協働して、資料の保全、修理活動を実施予定。被災文化財の修理保存に関する技術的な研究も実施予定。

(2) 県内復興関連発掘調査への協力

考古分野職員を調査員として派遣予定。

議 長：事業計画について何かございますか。

議 長：このスーパークロン展の共催等について、藝大はわかりますけれども「しまね文化振興財団」とか「山陰中央新報社」がどうして入っているのでしょうか。

小野副館長：巡回展で既に島根県立美術館が開催しておりまして、その協力をいただくことになってございます。

企画 班長：補足いたしますと、この東京藝術大学のスーパークロンを作られた宮廻先生が島根県出身で、地元の山陰中央新報社がこの巡回展の開催元となっています。そちらが東京藝術大学と組んで巡回展を行っているということです。

副 会 長：この特別展では、再現された物と、再現の過程も見ることができるのですか。

企画 班長：この特別展は基本的には複製品を集めた展示です。東京藝術大学がスーパークロン文化財という名前で特許を取りまして、このような作品を作っています。ただの複製ではなく、その素材、着色にもこだわって、その芸術的なDNAまでも復元したものをスーパークロン文化財としています。また、その物を五感で体験できるように、法隆寺の釈迦三尊像でしたら、その金堂壁画を復元しております。それも昔のデータを元に空間を再現して、空間自体も観ていただく。それから金堂の中で行われています読経等を録音しております。空間に入るとその音が聞こえる形になります。また、実際その場所ではお香が流れてくるということで、それを臭いで感じる、ということが出来ます。復元過程は映像で紹介しています。また、復元する時に使った鋳型等も一部展示します。

副 会 長：私自身は、再生したものだとしても、一生懸命再生した様子を見ることで、そのものの価値等を別な面白味をもって体験できる特別展だと思います。大事なものをこういう風に再現しているということをつかかった上で作品を見るという、面白さを体験できる特別展で、すごく興味があります。

企画 班長：触って良いとまでは言いませんが、触ることも一応可能となっています。絵画等は展示品に触れることで、臭いを嗅げたり、画面が変わるという工夫もされています。

立 川 委員：このチラシを見て、スーパークロン文化財と言われてもピンとこないところがありますので、こういう楽しみがありますよ、というのをもう少し付け加えたほうがよいと思います。臭いもクロン文化財展で体験できますよというような。すごく面白そうな内容ですので是非宣伝していただきたいと思います。

企画 班長：宣伝を頑張りたいと思います。東北放送さんに専用の HP を作っていただいております。ポスター裏面に解説はしてあるのですが、なかなか分からないということで、そのあたりをもう少し取り組みたいと考えております。関連行事もかなり楽しい企画があります。そちらにも別刷りでチラシを作成し、ネットからダウンロードできるようにしたいと思います。

議 長：一点よろしいでしょうか。調査研究事業の歴史分野なのですが、文化庁の「地域と共働した博物館想像活動支援事業」で対象地域が旧宮城郡地域となっていますが、これは地域を特定した形でやるのでしょうか。

学芸 班長：おっしゃるとおり地域を特定した事業でございます。

議 長：旧宮城郡地域になっているというのは、かなり限定された地域になっていますけれども、そういう性格の支援事業なのでしょうか。

学芸 班長：はい。そうです。

議 長：県全域ではなくて。

学芸 班長：県全域でも結構なのですけれども、この場合は宮城郡と限定的に扱ってございます。この事業が将来的に、完了しましたら、次の展開の手段としては隣接する郡に展開することもあり得るかと思えます。

議 長：そういう趣旨なのですね。

学芸 班長：イメージ的になるべく悉皆的に行いたいということで、このような範囲を設けております。

議 長：まず地元からということですね。

学芸 班長：そうです。

議 長：他にないでしょうか。

ここには出てないのですが、昨年末、多賀城市が多賀城跡外郭南門の実物大復元を予算化するという報道があったと思うのですが、博物館や研究所はどのようにその事業に関わるのでしょうか。予算的には全部多賀城でしょうか。国の助成等でしょうか。

須田 課長：多賀城市に関しましては、予算的などころでは国の補助ということで、県の補助は今のところはついておりませんが、これについては流動的な部分がございます。今までは環境整備は県が行って来たのですけれども、南門地区については多賀城市、南門の北側、政庁までの間は多賀城跡調査研究所で実施するというので、多賀城創建 1300 年に向けて協働でやっというので進めております。

議 長：是非盛り上げていただければと思います。

議 長：他にいかがでしょうか。それでは中長期目標達成自己評価についてお願いいたします。

(説明の概略)

【中長期目標平成 30 年度自己評価 (12 月末現在) について】

○取り組みの概要について

I 目的

開館以来の博物館を取り巻く環境の変化や東日本大震災からの復興という課題に取り組むため、平成 11 年 10 月に策定された運営基本方針を基礎とし、中長期に取り組む活動方針と達成目標について、平成 25 年度からの 5 年間の長期目標の前期、平成 30 年度からの 5 年間の長期目標の後期と位置付け、より魅力的な博物館を目指して取り組みを進めている。

III 取り組みの項目

後期の取り組みの目標は、前期の達成状況と新たな課題を見極め、9つの項目、16の活動方針、31

の達成目標を設定。重点目標として、「“み”たい博物館情報の創造」と「東日本大震災対応」の2つを柱に据え、関連する個別の達成目標を重点事業と位置付けた。

IV 結果概要

全職員で自己評価を行った後、館としての評価を班長以上で構成される中長期目標達成推進委員会ですとまとめた。31の達成目標のうち、最も評価の高い「達成」は2項目、「ほぼ達成」は26項目、「やや不十分」は3項目。総合評価は3の「ほぼ達成」である。

○「達成」及び「やや不十分」となった項目について説明

- ・達成目標番号①「総合展示室のリニューアルを目指し基本構想を策定します。」の評価は「やや不十分」。歴史的災害研究プロジェクトと平成28年度に策定した歴史的災害を盛り込んだリニューアル基本構想をベースに、震災復興関連の補助金獲得を想定して、総合展示室全体のリニューアルを検討してきたが、スキームやスケジュール的に難しいという判断に至った。今後は一旦歴史的災害研究とは切り離し、リニューアルに向けた取り組みを別個に進めていくことにした。
- ・達成目標番号④「外部の巡回展を積極的に誘致し、幅広い利用者の来館を推進いたします。」の評価は「達成」。マスコミ提案あるいは共同企画による大型巡回展等の誘致を継続して積極的に行っており、今年度の東大寺展の開催に加えて、来年度も2つの巡回展が開催予定。
- ・達成目標番号⑮「館のロゴを制定し、館のシンボルとして活用します。」の評価は「やや不十分」。どのようなロゴがふさわしいか、制定後の利活用や制定方法、スケジュールなどについて検討する、第1回検討会が12月中旬にずれ込み、スケジュールがやや遅れている。先般、関連するテーマの研修会を開催し、策定の先進事例を研究することができたので、今後検討を進めたい。
- ・達成目標番号⑳「施設設備整備検討委員会で現状を再検証し、障害者や海外の方を含めた全ての来館者の安全と文化財の保全管理に配慮した施設設備を整備します。」の評価は一部の工事が予定より遅れたため、「やや不十分」。
- ・達成目標番号㉑「県立博物館として、県内の文化財の保全活動をリードし、活動全体を推進します。併せて、被災文化財の修復や保存に関わる技術的な研究も進めます。」の評価は「達成」。「宮城県被災文化財等保全連絡会議」の代表幹事・事務局館として、県内市町村が直面する保全活動を主導し推進した。現在は、県立の博物館として、南三陸町や石巻市のほかの被災文化財について、補助金によりクリーニング及び安定化処理を行い、資料の活用支援などを継続して実施。特に、山元町合戦原遺跡の線刻壁画については、一連の保存処理、安定化から公開に至る全ての過程で技術支援を行った。
- ・「総合評価」は「ほぼ達成」。冒頭で説明した重点目標の「“み”たい博物館情報」の創造という目標に対しての評価。それぞれの分野で情報発信・提供に取り組んでおり、こうした多面的な取り組みが12月の入館者数300万人達成につながったと考えている。推進委員会の意見としては、各達成目標の取組において、まだ解決すべき課題はあるものの、今年度の実績を踏まえ「ほぼ達成している」と評価した。今後も「“み”たい博物館」を目指し、様々な博物館活動の情報提供・発信に努めていく。

議 長：これに対し、ご意見等ございましたらよろしくお願ひします。

議 長：中身を教えていただきたいのですが、1の総合展示室のリニューアルについて、歴史的災害を盛り込んだリニューアル基本構想をベースにされてきたということですが、スキームやスケジュール的に難しいということは、これは平成30年度に基本構想をまとめるのは難しいという趣旨ですか。そもそも歴史的災害を盛り込んで総合展示室をリニューアルす

るということ自体を難しいと判断しているのか、今年は難しかったという話なのか、これはどちらの評価になるのですか。

館 長：どちらかというと後者です。

企画 班長：時間的な問題、というかまずリニューアルに向けて補助金を獲得しようというのがあります。災害関係の補助金の期限が平成 32 年度までだったのですが、それに間に合うような形で今の事業を進めていくことが難しいという判断で、その補助金はあてにせず一から博物館としての常設展示のリニューアルを考えていこう。補助金の獲得を目指していたものですから、災害展示というのはある意味全面に出していくようなリニューアルというものを考えていたのですけれども、そこについても全体に、館としての常設展示がどうあるべきかをもう一度考え直して、災害展示に取り込まないということではないのですが、それをどういう形で取り込んでいくかということも含めてもう一度仕切り直しするという形になっております。

議 長：今のは展示に関する補助金ですよ。もう一つ先ほどの中で、調査研究事業の中で、歴史的災害展示研究プロジェクトで、昨年度まで 13 回研究会をやったというような報告が事業報告の中でありましたけれども、この研究会とは表裏一体でしょうか。

企画 班長：その研究会は基礎研究になりまして、それを基にして常設展示を担うというように考えてきたのですが、今回、その研究会の中でもこのあり方について話し合いをした中で、研究会というのは基本的には災害展示自体の研究をしていこうと。

議 長：展示を研究ですか。

企画 班長：展示を研究するという形になります。それとリニューアルは切り離して、リニューアルについては体制を整えたいと考えております。

議 長：そうすると災害関係の展示というのは、別の企画展でやるとか、総合展示ではなく行うのでしょうか。

企画 班長：おっしゃるとおりで、せっかくこういった研究を進めているので、科研費というのは研究に対しての補助金ですので、その成果を出さないのはもったいないことですので、震災の 10 年目あたりを目標にしていくということを考えております。

議 長：総合展示室のリニューアルの根本に、災害ということをテーマにするということ自体はどうかという話にそもそもなってくるのでしょうか。要するに災害だけを大々的に出してしまっても良いのかどうかということになります。

企画 班長：そういうところもございます。常設展示としてどうあるべきかという意味では、もう少し考え直したほうが良いと考えております。

議 長：そうですね。そこは災害だけで歴史を語っていいのかということがありますので、いろいろな要素があると思います。

議 長；他にいかがでしょうか。

副 会 長：私は、外部評価は皆さんが評価なされたことを今後の館の運営に活かしていただければそれでいいと感じております。それを考えたときに、2 とか 3 と評価した時の評価の基準がどういったものであるかを、皆さんで共有することがとても大事だと思います。評価の基準を事前に設定することは非常に難しいことですが、皆で練っていけば、それを作っている段階で共有化されると思います。そういった意味ですごく分かりやすいものに「⑩館のロゴを制定し、館のシンボルとして活用します」があります。そのままですので、評価もはっきりするのではないのでしょうか。皆さんにとっての大切な評価となるので、評価した後には、これに基づいて「できた」「できない」と共有できるレベルまで、はじめの段階で

共通理解することがとても大切です。もう一つは、ある時期から偶数段階評価が増えてきて、今は4段階が多いですね。つまりはっきりさせる。それから、「十分達成されている」「やや不十分である」という、達成されているというのはどこなのかと、単純に「十分達成されている」というのは「達成されている」というのよりも凌駕しているということか、「ほぼ達成されている」は、達成していないけれども達成に近いという意味か、たくさんあるうちのいくつかを達成しましたという意味なのか、その辺の意味合いを共有なされば良いと思います。単純に、達成というのはどこにあるのかなと、これをみると4と3の真ん中あたりなのか、それとも中に入っているのか、ちょっと評価を見たときに考えたりします。皆さんで評価する時の共通理解の一つだと思いますので、基準内容や基準の数、あるいは、何段階というのはあくまで今後の活動に反映されるように練っていくことが、結果的には成果につながると思います。

宮原委員：平成29年度の年報に、自己評価の同じ項目で記載があって、46・47ページに平成25年度からのいろいろな項目の評価の数値が書いてあるのですが、今までは、「2.4」とか小数点表示となっているのですが、平成30年度は「2」「3」「4」という付け方ということで、評価の観点を変えてやっていらっしゃるのかなと。

管理部長：今回、この資料のとおり整数化した数値で推進委員の意見ということで作成しました。これは、全職員の評価の平均点を出し、その数字を推進委員かどう評価するか、そういったことで最終的に出した点数でございます。単純に推進委員だけがこの事業を見て判断したのではなくて、まずは全職員が評価をした上で、その評価を踏まえて推進委員としてどうするかということで、昨年までは平均化した数字を使っていましたが、例えば「2.7」等コンマ0.1にどういう意味を持たせるのか、数字の意味を説明しにくいということで、推進委員が4項目の中でどちらにより近いと評価したのかを示すといった考えで出しました。

宮原委員：今後こういう形での数字が使われるということですか。

館長：内心「3.5」にしたい等もありますが、この際は整数化してはっきりさせようと考えます。

議長：平成30年度達成目標に対する評価ということになりますけれども、年度毎に達成目標は策定されているのか、それとも長期計画の中で目標があって、というようになっているのですか。

管理部長：活動方針がありまして、30年度の達成目標はこう立てましたということです。ただ30年度が31年度になったら変わるのかというそうではなく、いわゆるこうした項目の中で30年度の目標として掲げ、その上で単年度の評価、それから後期5年間、5年後にはそれを踏まえて後期の全体の評価がこれに対してどうだったのか、という形の評価は改めて出す形を考えております。

議長：中長期目標における目標の立て方と、評価の仕方というのはいろいろな方法があるので、難しいところがあるのですが、中長期的な中で今年度はどのくらいまでやるという話と、単年度で目標を設定して、それがどこまでいったかというやり方、普通両方と思いますが、この場合には、どちらかというのが分かりにくい。平成30年度に「展示室のリニューアルを目指す基本構想を策定します。」とありますがそれがうまくいきませんでした、ということで「2」の評価は分かりませんが、平成31年度の目標が出てこない「PDCAサイクル」のチェックまで行って、その「2」をどうやって改善して評価につなげていくかというのが見えないですね。そういう印象を持ちましたので、平成30年度と書かれているからそのように理解されるのか、中期目標の中で、現段階でこういう状態にあると記載すればこのようにならないのかもしれませんが、なかなかそこはどちらで理解すれば良いのか。

もしこういう書き方をするのであれば平成 31 年度は次の目標というのを出してもらわないと、いつまでにこれを実現しますというのが見えて来ません。

管 理 部 長：おっしゃるとおり、30 年度と表記すると 31, 32 年度はどうかということ、毎年毎年変わると、経年で見るときに、全体があって 1 年毎に目標設定しなとなかなか難しい、そういうことで 30 年度という言い方は誤解を受ける表現と思いますので、修正もしくはどうするのかということを考えさせていただければと思います。昨年度作る上では、それぞれの目標において、どういったスケジュールで見ていくのか、どの時点までの達成なのかというのは別に表を作っておりますので、その辺を参考にしながらどういった表現が適切なのかを考えさせていただきたいと思います。

議 長：二重構造で、お示しいただけると全体計画の中で今年度は中間年度なのでこの辺までいきました、残りの年度で頑張ってくださいというようにすると見やすいと思います。

館 長：我々の自己評価として数値を出しておりましたけれども、これはこれでよろしいという外部評価としての判断ということによろしいでしょうか。

議 長：職員の自己評価を尊重いたします。特に大きな異論があったわけではありません。

議 長：予定された議題は以上でございます。

高 橋：ありがとうございました。それでは閉会にあたりまして、東北歴史博物館館長鷹野光行がご挨拶申し上げます。

以下省略